

令和6年度宗像市環境保全審議会（第1回）

＜議事要旨＞

■日時、場所

○日時：令和6年7月11日（木）10:00～12:00

○場所：市役所304会議室

■出席者

○審議会委員

委員出欠表（■出席 □欠席）		
■安藤委員	■柴田委員	■清水委員
■堤委員	■中石委員	■中村委員
■東委員	■松尾委員	■松本委員

○事務局：環境部 山倉部長

脱炭素社会推進課 前田課長、野副、根末

環境課 高倉課長、山口主幹、大森係長

1. 開会

- ・野副から配布資料の確認
- ・前田課長から開会

宗像市環境保全審議会規則第五条第二号から、審議会開催には委員の半数以上の出席が必要。本日は全員出席であり過半数以上の出席が確認できたため開催を決定する。続いて、事務局の中で人事異動等によって担当者が変更になった者の紹介を行う（環境課 高倉課長、大森係長、脱炭素社会推進課 野副）。

2. 環境部長挨拶

- ・山倉部長から挨拶

令和5年に中間見直しを実施した第二次宗像市環境基本計画を着実に推進するため、本日は計画の令和5年度の進捗評価報告に対して審議をお願いしたい。結果は市としての取組改善に生かしたい。宗像の豊かな自然を守り後世に伝えるためにも活発な意見をいただけると幸いである。

3. 会長挨拶

- ・松本会長から挨拶

冒頭山倉部長からもあったように、同計画については令和5年3月に見直しとなる第一回目の進捗評価を実施。日頃の環境行政への意見および日々の環境行政へのニーズは変化している。これらを踏まえ本日は積極的な意見をお願いする。

4. 市からの諮問

- ・山倉部長から会長へ諮問書を手渡す。

5. 審議事項（以降、進行は会長）

（1）第二次宗像市環境基本計画（中間見直し）の令和5年度進捗評価報告書について

＜審議の前に野副から資料2の1～3を説明＞

1. 計画の概要と進捗評価の目的

2. 評価手順

環境基本計画に基づき、年度毎、課ごとに実施。

③にあたる部分が本日であり、評価を受ける場となっている。

3. 評価の方法について

P6 (3)評価方法について

堤環境長からの指摘を踏まえ、以下2点訂正している。

訂正理由：事業評価が全ての項目でCでも個別施策の評価が1.0未満にならないため。

＜訂正①表の上から2段目＞

【訂正前】1.0以上2.5未満

【訂正後】1.5以上2.5未満

＜訂正②表の1番下＞

【訂正前】1.0未満

【訂正後】1.5未満

(堤)個別施策の評価については2.0以上でないと良好とみなされないので。

(野副)概ね順調の項目を1.5以上とした理由。Bが半分以上入ると、総合評価が1.5以上となるため。

(前田)Cが1つでも入ると進捗が遅れているとみなされるわけではない。

(松本)Cが1つでもあれば良くないものと評価するか、全体の平均で評価するか要検討。

(安藤)P6の②部分に「総合評価」の文言が入っておらず分かりづらい。公表の際は評価の根拠の追記が必要では。

＜野副から「4(1) (1) 計画指標と目標値の進捗状況・評価」を説明（資料2のP7）＞

数値が把握できていないものが多いが、次回以降記載できるよう、市民アンケートを取るなど担当課と調整を図る。CO2排出量については、環境省HPの自治体排出カルテの最新の数字を引用。

＜野副から施策の柱1-1から1-4を説明（資料2のP14～25）＞

取組事業の数が多いため、本日は総合評価が2.5未満の事業についてのみ説明を行う。

【委員からの意見・質問】

(中石)①クリーン作戦など市民参加型の事業は参加数の減少が問題。市内小学4年生を対象に呼びかけたが不参加の学校もあり、次年度以降どう進捗を判断していくか。

②水辺となると、どうしても川が主体となる。海で小学5年（宗像市・福津市）にイベントを実施する中で、宗像市からの参加者が減少しており気になっている。

(大森)①評価の指標が市内全小学校4年生への実施となっている。昨年は説得したが不参

加に。評価としては落ちてしまう。

(清水)ホタルの生育状況調査について、記載の数字(匹)は実施全日での計測ではないと感じる。集計日を記入しておいた方が良いと感じる。

(野副)5月は計7日間、6月は計5日間実施。記載漏れのため、その他の欄に追記を行う。

(清水)OECMはこの5年間のどこかで実施予定があるか。

(前田)釣川河口での調査を検討中。

(清水)P23 農業資源の保全活動の支援内容、農道の路面維持等地域資源の保全活動について、具体的に説明を求める。

(前田)ため池の補修。田んぼダム等が該当。

(安藤)評価を公開する際はどのフォーマットとなるか。

(野副)本日の資料通りで公開予定。

(柴田)個人的な話ではあるが、里山の保全について、居住地周辺の土地を買い占める人が出てきている。居住者の高齢化等に伴い環境保全が難しくはあるが、川の水が住居前まで流れ災害に繋がる恐れも生じている。改めて環境を保全しなければと感じる。

(堤)P24 カノコユリの評価はBではなくAでは。

(野副)取り組み事業評価票28番から、Bで2としている。

(堤)取組事業評価表と資料2とでは評価の違いが見受けられる。評価までの流れを教えてほしい。

(野副)1事業について複数課から報告を受け、それらを総合的に判断している。

(堤)22 荒廃竹林対策 参考資料事業評価はBであるが資料2 P22では一との評価で齟齬がある。公開も想定し精査を希望する。

(野副)修正します。

(堤)目標値は年度ごとに変更する可能性があるか

(野副)あり

(堤)根拠を明確にしていただきたい。

例：実績値が未達であっても昨年改善傾向である旨でB評価のものも。

前年度がそのまま目標値になっているものもある。

評価基準の記載がないものもあり、次年度以降改善をお願いする。

(松本)資料間で評価が不一致のものは改善を要求。

(松尾)P23 竹の粉碎について、今後の活用予定はあるか

(前田)運搬に費用が掛かるなどの問題はある。当課として、クレジットでお金に換える仕組を検討。具体的に、CO₂を吸収する竹をバイオ炭として農地に固着させる。売る仕組みを検討段階。

(安藤)竹のコンポストへの活用予定は

(前田)一部ある。

<野副から、施策の柱2-1から3-2を説明 (資料2のP26~41) >

【委員からの意見・質問】

(東)P28 公共交通にはのるーなども含んでいる認識でいる。今年度、公共交通の確保が課題になっており、新しいタクシー助成券のようなことをしていますが、来年度以降

はもう少し丁寧に評価をしたほうが良いと考える。

少々楽天的と感じる。JR や西鉄なども経営が厳しい状況であり、慎重な記載をお願いしたい。

(前田) 交通は今後ますます課題になると感じる。担当課にしっかりと伝える意向。当市は車の使用による温室効果ガスの排出割合が高いため、脱炭素の観点と合わせ改善できなか引き続き対策を検討。

(東) P30 生活騒音について、苦情の件数は令和4年度と比較し約2倍ほどであるが指導は0件である。B評価の理由を知りたい。また、事業評価票42発生源の調査についても評価が不明。

(大森) 事業評価票42 苦情相談体制についてはC評価のため、資料2記載分は修正する。73件の内訳は、猫のフンなど近所間でのトラブルが多いため、相談を受けるまでの対応で指導は難しい。悪臭や野焼きも、現場を押さえられず口頭での確認などの対応までとなってしまう。

(東) P30 化学物質ガイドラインの遵守 具体的な実施の説明がない。以前は遵守徹底のため講習会を実施していた。現在の状況を知りたい。

(大森) 過去の情報などをそのまま引き継いでいる現状。よって、昨年度講習会など実施はしていない。現在所持しているガイドラインも更新が必要と感じる。庁舎のトイレで使用する化学物質については、業者に表示をお願いしている。

(堤) 取組事業39において、資料2のP27ではB評価、参考資料ではA評価となっているので誤りでは?

(野副) 資料間でのズレがあり申し訳ない。後日修正し報告をする。

(堤) 目標値と実績値が一致しているのにAになっていないものがある。

例: 事業評価票54、59、65では目標を達成していてもB評価

(前田) 確認を行った課ごとの認識で、目標は達成しているものの、現状維持のためB評価と判断した可能性。事務局で統一的な判断ができるおらず申し訳ない。ここについては後日総点検を行う。

(松本) 現状維持の際にどう評価するか要検討。

(中石) 資料2において、採番がなく事業評価票と見比べられない。修正をお願いしたい。

(清水) P32 事業所から提出される減量化計画にはリサイクルのための回収BOXの回収分も計算に含められるか。

(山口) スーパーの拠点回収ボックスは減量化計画には含まれていない。

(清水) リサイクル率未達の要因はスーパーの活動によるものか。

また、一般道路で見受けられる紙のリサイクルは市の推奨によるものか。

(山口) 一部推測も含まれるが、リサイクル率の伸び悩みの要因の1つとして、民間の実施によることが要因と感じている。数社へのヒアリングを行い、聞き取った数値を計算に含めると令和4年と同等になる感覚。今年度も民間企業へのヒアリングを予定。

(松本) スーパーの実施については民間主体のため市の事業計画ではない認識。

数値について、福岡市では調査を実施していると聞く。

(安藤) データは横繋がりか、各課で別に評価しているのか(例:P15、27 釣川での事業)

(野副) 横つながりであり、一部重複もあり。

(清水) P28 ごみの焼却への指導対象はどんな方か

(山口)田や畠の野焼きが最多。

(清水)基本的に焼く行為は禁止なのか

(山口)農業は例外規定となっているが、近隣の方への健康被害が見込まれれば問題と認識。

確認に赴き話し合い、控えてもらうよう指導をしている。

(堤)追加として、野焼きは禁止する法律が存在するが例外とし農業、林業など維持のためであれば許容される。今の説明のとおり、農業用という括りでは不可で、ビニール等の焼却は禁止。

(安藤)野焼きでは、指導はあっており、P30 発生減の適切な調査・指導の実施では指導件数は0件。それでいいのか。

(大森)野焼きの項目では出動した回数を計上。後者は事後のケース(匂いなどのクレーム)で、ヒアリングとなる。他案件は猫への餌やり、早朝のニワトリの鳴き声など。現場を押さえることが難しくお願いベースの対応となる。公開を想定するのであれば記載方法を変更することも検討。

<野副から、施策の柱4-1から5-2を説明 (資料2のP42~60) >

【委員からの意見・質問】

(松本)P45 次世代自動車 公用車の評価を詳しく

(前田)D評価であるが、もう少し高く評価したいとも考えている。市の公用車のみならず、他にも未切り替えのものが多くある。事前の目標値を設けず順次買い替える想定。

(中石)ZEHもだが、目標値がない状態で実績として記入することはいかがなものか。

(松本)脱炭素は今後重要な施策である中 D評価が多く格好が悪い。記載の工夫が必要。

(前田)見直しを検討する。

(堤)未着手案件もあるが、全体的に省エネ・再エネ導入を促進してないように写ってしまう。実施していることがあるのであれば見せ方の工夫が必要。

(中石)地産地消 事業評価表74ではA評価だが資料2では評価無し。理由を伺いたい。

(野副)学校管理課、農業振興課、健康課、当課の4課でそれぞれ評価を行っている。総合的判断すると違うものになっている状況。

(前田)全体的に評価の方法が分かりづらく、再度見直しを行う。なるべく分かりやすい形にしたい。

(松本)同様に複数課横断の事業への評価方法を考えていただきたい。

(清水)①P51 都市計画課 田熊・くりえいと地区への対策は重要なため目立ち分かりやすくなるよう工夫を希望。

②P54 JRへの早期開通の要請について詳しく。

(野副)①修正する。

②確認し、後日回答する。

(安藤)全体的に現状維持と目標値の評価基準の統一を。

(堤)評価表 目標と実績の比較について 例: 事業評価票 60

実施すること、したことの評価にする必要がある。また、「0」件のような目標はある種究極的なものと感じる。

(前田)今回は活動指標・成果指標と捉えた。最終的には成果指標としていきたい。活動し

たことか成果なのか、検討していく。

(清水)市民アンケート取る際の満足度を今後の評価基準にどう反映させるか。

(野副)市民アンケートは「4(1)計画指標と目標値の進捗状況・評価」(資料2のP7)に反映。

(東)①P32 フードドライブ 受入重量も大切だが、食品ロス対策に賛同する市民を増やすことが本来の目的。アンケート時にはこの旨を記載し参画を促す工夫が必要と感じる。

②水害リスク低減のため多くの課の取組が理解できた。先日の大雨もあり、同事業への市民の関心は高いと感じる。同計画からだけでなく、担当課が広く周知すべきと感じる。

(野副)危機管理課の担当であり、実施状況報告は行っている。

(東)報告手法は今回のような報告書ベースか。一般市民に広く伝わる方法での周知が好ましい(改善がないと感じる市民もいると感じる)。広報を。

(2) 答申書の作成について

野副から、答申書作成の流れを以下のとおり提案。特に意見はなく、この流れで作成することに決定。

＜答申書作成の流れ＞

「事務局で案作成→松本会長確認→修正→委員の皆様確認→修正→再度、松本会長確認→完成」

(3) その他

次回来年7月頃 今年度の進捗評価の内容でお願いしたい。

松本：評価の方法について考えていきたい。

7. 閉会

以上で令和6年度第1回環境保全審議会を閉会する。

以上